

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向  
平成 31 年 3 月

○ 概要

(1) 平成 31 年 3 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,733 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲5.4%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 8,885 円（伸び率▲4.3%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,761 億円（伸び率▲0.3%）、薬剤料が 4,961 億円（伸び率▲7.1%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 973 億円（伸び率▲4.2%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,147 円（伸び率▲6.9%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.71 種類（伸び率▲0.4%）、24.4 日（伸び率+2.1%）、78 円（伸び率▲8.4%）であった。（→P.8,9）

(3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,900 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲337 億円）を薬効大分類にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 694 億円（伸び幅▲114 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の+35 億円（総額 325 億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,900 億円 (▲337 億円)	21 循環器官用薬 (694 億円)	11 中枢神経系用薬 (659 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (595 億円)
0 歳以上 5 歳未満	31.8 億円 (▲4.8 億円)	44 アレルギー用薬 (14.6 億円)	61 抗生物質製剤 (5.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.8 億円)
5 歳以上 15 歳未満	113 億円 (▲8 億円)	44 アレルギー用薬 (57.9 億円)	11 中枢神経系用薬 (21.2 億円)	61 抗生物質製剤 (9.2 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,428 億円 (▲118 億円)	11 中枢神経系用薬 (288 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (226 億円)	21 循環器官用薬 (211 億円)
65 歳以上 75 歳未満	895 億円 (▲102 億円)	21 循環器官用薬 (195 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (170 億円)	11 中枢神経系用薬 (106 億円)
75 歳以上	1,433 億円 (▲104 億円)	21 循環器官用薬 (284 億円)	11 中枢神経系用薬 (244 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (193 億円)

(4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,885 円（伸び率▲4.3%）で、最も高かったのは北海道（10,567 円（伸び率▲4.2%））、最も低かったのは佐賀県（7,531 円（伸び率▲5.4%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは島根県（伸び率▲1.6%）、最も低かったのは山梨県（伸び率▲7.0%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注</sup>	77.7 %	+4.7 %
薬剤料ベース	19.6 %	+0.6 %
後発品調剤率	73.6 %	+2.8 %
（参考）数量ベース（旧指標）	53.9 %	+3.7 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔（後発医薬品のある先発医薬品の数量） + 〔後発医薬品の数量〕〕 で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.2%	+9.0% (0 歳以上 5 歳未満)	▲12.7% (65 歳以上 70 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.6%	22.0% (0 歳以上 5 歳未満)	14.8% (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	77.7%	80.4% (60 歳以上 65 歳未満)	69.0% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.47~53）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	857 億円 (▲48 億円)	21 循環器官用薬 (254 億円)	44 アレルギー用薬 (126 億円)	23 消化器官用薬 (108 億円)
0 歳以上 5 歳未満	9.1 億円 (+0.7 億円)	44 アレルギー用薬 (3.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.6 億円)	61 抗生物質製剤 (1.5 億円)
5 歳以上 15 歳未満	28.4 億円 (+1.4 億円)	44 アレルギー用薬 (19.5 億円)	61 抗生物質製剤 (3.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.8 億円)
15 歳以上 65 歳未満	318 億円 (▲13 億円)	21 循環器官用薬 (74 億円)	44 アレルギー用薬 (73 億円)	11 中枢神経系用薬 (47 億円)
65 歳以上 75 歳未満	197 億円 (▲20 億円)	21 循環器官用薬 (78 億円)	23 消化器官用薬 (25 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (20 億円)
75 歳以上	304 億円 (▲17 億円)	21 循環器官用薬 (102 億円)	23 消化器官用薬 (51 億円)	11 中枢神経系用薬 (36 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.66~71）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,284 円	1,690 円（北海道）	1,083 円（佐賀県）
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲3.1%	+0.3%（徳島県）	▲6.7%（福井県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	77.7%	86.6%（沖縄県）	70.8%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.6%	23.5%（鹿児島県）	17.2%（徳島県）
後発医薬品調剤率	73.6%	82.3%（沖縄県）	68.0%（東京都）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	53.9%	63.1%（沖縄県）	49.4%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成31年3月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。